

# 「はなふさ」(花房小学校だより)

北九州市立花房小学校 文責 校長 加来 和久

## 平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数・理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一面に過ぎません。本校では、他の教科・領域も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 教科に関する調査結果の概要

#### ① 学力調査結果と分析

カテゴリー	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語A	<ul style="list-style-type: none"><li>具体的な事例を挙げて説明する文章を書く問題は正答率が高かった。</li><li>話すこと、聞くことに課題がある。</li><li>読み解く問題に課題があり、読むことを習慣化する必要がある。</li></ul>
国語B	<ul style="list-style-type: none"><li>目的や意図に応じ、新聞の割り付けをする問題の正答率が高い。</li><li>目的や意図に応じて、整理して文章を書いたり、関係付けて自分の考えを書いたりする力が低い。</li><li>目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く問題の正答率が低い。</li></ul>
算数A	<ul style="list-style-type: none"><li>異分母の分数の減法の計算をする問題は、正答率が高かった。</li><li>数と計算、量と測定、数量関係の領域では、正答率がかなり高くなってきた。</li><li>図形領域では、正答率がやや劣り、継続的に取り組む必要がある。</li><li>加法における計算の確かめをする問題は、無解答率が高かった。</li></ul>
算数B	<ul style="list-style-type: none"><li>数量や図形についての技能を活用する問題の正答率が高かった。</li><li>活用問題に対して、粘り強く取り組むことができるようになった。</li><li>割合や単位量あたりの学習を活用して問題を解くことができるようになった。</li><li>概数を用いた見積りの結果から判断して解いていく問題の無解答率が高かった。</li></ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"><li>振り子の運動の規則性を振り子時計の調整の仕方に適用できるかどうかをみる問題の正答率が高かった。</li><li>観察・実験を中心とした問題解決に取り組むことにより、得られた理解が知識・技能として習得されているといえる。</li><li>習得した知識を活用して問題に粘り強く取り組むことができるようになった。</li></ul>

#### ② 学校における学習状況に関する調査結果と分析

・授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が示されているやノートにもめあてやまとめは書いていたと思うと回答している割合は高く、全国平均を上回っている。  
しかし、「自分の考えを他の人に説明したり文章に書いたりすることが難しいと思う」や「学級の友達との間で話し合う活動を通して自分の考えを深めたり広げたりすることができている」という回答は、昨年度や全国平均よりも低くなっている。文章に書くことに抵抗感をもっている児童が年々増加する傾向にある。授業の中で自分の考えをまとめ、発表する機会を増やしていく必要がある。  
・自分の考えを書いて整理してから説明させたり、授業の終わりに振り返りを書かせたりする活動を位置付け

## 2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

### ① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析

・家で学校の宿題をしている児童は約97%で、昨年度とほぼ同じであった。  
・平日に1時間以上家庭学習をしている児童の割合や自分で計画を立てて勉強をしている割合は、昨年度より下がり、課題が残る。時間のめやすや家庭学習の具体的な取組方については、小中一貫・連携教育で取り決めている「家庭学習の手引き」をもとに再度児童に指導する必要がある。  
・算数A・B、理科の問題で今回は全国平均を上回れたが、油断なく家庭学習の習慣化ができていない現状を強く知らせ、今後も「家庭学習のすすめ」等で家庭学習の量や時間、内容、進め方等を児童や保護者に

### ② 生活習慣等に関する調査結果と分析

・将来の夢や目標をもっている児童は、昨年度や全国平均と同じくらいである。また、自分にはよいところがあると思うと答えた児童は、昨年度よりも割合が増えていた。学校行事や人権学習、道徳の授業等を通して、自尊感情が向上してきたことがうかがえる。しかし、テレビやゲーム等、1日当たりに行っている時間は昨年度と変わらず高い。テレビやゲームに費やしている時間を家庭学習の時間に変えるよう指導し、保護者にも啓発していく必要がある。

## 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

### ① 教科に関する取組

学力向上に関する職員会議の定期的な実施

- ・学期始め、終りに学力向上に関する職員会を設定し、各学級の取組と方策、成果と課題の実践交流会を行う。
- ・全職員で過去の問題(学テ・CRT)を解き、出題傾向や児童が躓きやすい問題を確認し、授業改善に役立てる。

◎ 学力向上のための特設時間の実施

- ・スキルアップタイムを火、水、金曜日の朝8:35~8:50に設定する。火曜日:国語 水・金曜日:算数
- ・1年生のスキルアップタイムは、MIMを中心に行う。
- ・職朝の時間の月曜日は読書、木曜日は各学級の取組を行う。
- ・国語の授業始めに、ひまわりの音読を行う。また、ひまわり音読暗唱会を計画し、発表する場を設定する。
- ・国・算のアシストシート、基礎基本を含む活用力を育成する教材を職員室の棚に、過去問や単元別プリントを学年別引き出しに準備する。
- ・小中連携サポーター…計画的な配置、活動補助、プリント整備。
- ◎ 過去問題、アシストシート、活用力を高めるワークの活用
  - ・朝自習や単元末に活用力を高めるワークを行う。
  - ・アシストシートをスキルアップタイムで行い、答え合わせ、解説、やり直しを行う。
- 「書く」ことを習慣化
  - ・学習のめあて、まとめをすばやく書けるようにし、「ふり返りタイム」を設け、ふり返りを書くようにする。
- 授業改善
  - ・学年会等で、授業改善ハンドブックを活用し「わかる授業」、「問題解決的な学習の進め方」について協議する。
  - ・学習の最後に、「振り返りタイム」として、振り返りを書くようにする。

### ② 家庭生活習慣等に関する取組

◎ 宿題のスタンダード化

- ・(15分×学年)時間程度の課題を出す。(例、漢字、音読、作文、算数(計算)、学習のまとめ、自主学習)
- ・家庭学習の必要性について、学校、学年、学級通信、学級・個人懇談会等で保護者への啓発を図る。
- ・学年で家庭学習の進め方について共通理解を図る。足並みを揃える。
- ・冬休み・春休みの宿題に、過去問やアシストシートを活用する。
- ・家庭学習チャレンジハンドブックの資料編を活用して、月ごとの点検を行う。
- ・家庭学習マイスター賞への応募を呼びかける。
- ◎ 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知
  - ・学校、学年、学級通信、個人懇談会等で啓発する。
- ◎ 小中一貫・連携教育の取組
  - ・小中で話し合っただけ「家庭学習の手引き」、「学習規律」を保護者に配布し、小中で足並みを揃える。
  - ・6年生の春休みには、中学校からの宿題を課す。